

## ピレモンへの手紙17節 「傷つけた人の迎え入れ」

### 1A 執り成しにある赦し

- 1B ユダの執り成し
- 2B ヨセフの赦し
- 3B キリストの御霊の証し

### 2A 身近な人との和解

- 1B 役に立ったマルコ
- 2B 小さき者となられたイエス
- 3B 家の教会にあったしこり
  - 1C 愛と信頼に知られたピレモン
  - 2C 盗んで逃げた奴隷オネシモ
  - 3C ローマの獄中での回心

### 3A 代償に見られるキリスト

- 1B 獄中で生んだ子
- 2B 役に立つ者
- 3B 迎え入れの嘆願
- 4B 請求

### 4A キリストに似た者

- 1B 執り成しておられる方
- 2B 赦す者
- 3B 執り成す者

## 本文

ピレモンへの手紙を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、前回、テトスへの手紙を終えて、ピレモンに入ります。一章しかない短い手紙です。午後に一節ずつ見て行きますが、今朝は17節に注目します。「**ですから、あなたが私を仲間の者だと思うなら、私を迎えるようにオネシモを迎えてください。**」

### 1A 執り成しにある赦し

ピレモンへの手紙は、ピレモンという個人宛てに書いた短いパウロの手紙ですが、そこには美しい、罪を犯した者のための執り成しの物語が描かれています。ピレモンは、コロサイにある教会にある、家の教会の主でした。おそらく裕福な人で、その家を教会に開放してしていました。彼には、オネシモという奴隷がいました。ところが、オネシモは家にあるものを盗んで、逃亡したのです。当時、ローマ帝国には数多くの奴隷がいて、逃亡者も多くいました。逃亡者の多くは、人込みに紛れ

るために、首都ローマに住んでいます。なんらかのかたちで、オネシモが、当時、法廷に出るために獄中にいたパウロに会います。そして、パウロによって信仰に導かれるのです。彼は、すでにパウロのところまで主に仕える働き人になっていました。

パウロは、自分が書き記したコロサイ人への手紙と共に、オネシモをコロサイへ送り出しました。そのオネシモを、元の主人であり、教会に使われていた家の持ち主であるピレモンに、彼を受け入れてくださるように嘆願しているというのが、この手紙の内容です。これには、相当の覚悟が必要です。当時のローマ社会では、逃亡した奴隷は焼き印を押されたり、逃亡した奴隷用の獄屋があったりしました。主人が非常に怒っている時には、殺されました。主人にとっては、とんでもないことをした元奴隷が、福音の働き人としてコロサイの教会に迎え入れることは、人間的に言えば、虫の良すぎる話です。

しかしパウロが、こうした状況の中でピレモンに、オネシモを受け入れてくれるように嘆願します。それは、虫の良い話ではなく、実はキリストにある赦しと和解であり、信仰の実践なのです。私たちにとって、赦しは映画や小説、あるいはいろいろな話を聞いて、美談として聞きます。けれども、一端、自分自身が非常に身近なところで、ある人が自分を傷つけた、損害を与えたとしたら、その「赦し」という言葉は、美談にはなりません。葛藤と悩みと、勇気ある決断になります。しかし、そこにこそキリスト者になった醍醐味がありますね。私たち自身が、神に対する罪をキリストにあって赦していただいたのです。その赦しを実践するのですから。

### 1B ユダの執り成し

聖書には、このように、罰を受けるのが当然の身の人のために、それを赦していただくために取り入る人々の例がいろいろ出てきます。執り成すというのは、基本、この行為です。敵対関係にある二者、あるいは損害を受けた人と加えた人の間にある間に、仲裁します。取り持つ、という言葉もありますね。執り成すことによって、和解が生まれます。そこには、両者に大きな勇気が必要です。被害者は赦すという勇気が必要です。加害者は赦しを請うという勇気と、赦してもらったらその赦しを受け入れるという勇気が必要です。その間に立って、加害者のために被害者に取り入ること。あるいは、公正な裁判を下す裁判官の前で弁護すること。これを行うのが執り成しです。

私が思い出すのは、ヤコブの息子ユダが、弟ベニヤミンのために執り成したことです。執り成した相手は、ヨセフです。もちろんヨセフだと知らずに執り成しています。エジプトの御代官様でした。兄たちは、ヨセフを奴隷に売り渡していました。しかし、ヨセフを神は引き上げ、ファラオの側近にされました。世界に飢饉が来ます。エジプトには、穀物の備蓄が豊富にありました。ヨセフの指示によるものです。そして、ヤコブの息子たちもエジプトから穀物を買いに来たのです。その時に、ヨセフは、兄たちが自分の前にひれ伏すのを見ました。ヨセフは、兄たちが変わっているのかどうかを試したかったのです。それで、同じ母ラケルから生まれたベニヤミンに対して、兄たちは自分にし

たのと同じようにするのかどうかを、見たかったのです。

しかし、そこにはベニヤミンがいませんでした。それで、ヨセフは末の子が来るまでは私の顔を見てはいけないと言いつけ、シメオンを人質にしました。父は、絶対にベニヤミンを送らないと言っていました。けれども、食糧は底をつきそうになっていました。それでユダが、父に執り成したのです。もしベニヤミンに何かがあったら私が保証人になりますと。

ヨセフは、ベニヤミンの姿を見て、泣きました。けれども、ベニヤミンが自分の杯を盗んだと見せかけました。それで、彼らに対して、「ベニヤミンを私の奴隷とする」と言いました。するとユダは、前に出たのです。ユダは、父がベニヤミンを失ったら、母の子として誰も残らなくなる、だから死んでしまうと訴えました。そして、「ベニヤミンの保証人となっております。」と言ったのです。「創世 44:33 どうか今、あの子の代わりに、あなた様の奴隷としてとどめ、あの子を兄弟たちと一緒に帰らせてください。」ベニヤミンの身代わりになることを申し出たのです。

この時にヨセフは、使いの者たちをみな追い出し、兄たちとベニヤミンだけにして、自分がヨセフであることを明かしたのです！これが、執り成しのなせるわざでした。ユダが、敬っている父を取り出し、彼を悲しませてはいけないということ。そして、彼自身が身代わりになるということで、ヨセフは心を動かされたのです。

## 2B ヨセフの赦し

ヨセフは、この執り成しで、前から抱いていた思いを、彼らに明かすことができました。それは、「創世 45:5 神はあなたがたより先に私を遣わし、いのちを救うようにしてくださいました。」そして兄たちを赦し、父ヤコブとすべての家族をエジプトに下るようにお願いしたのです。

ヤコブが死んだ後、もうずっと時間が経っているのに、兄たちは恐れていました。父ヤコブが、兄たちの背きと罪を赦してやりなさい、と生前に言っていたと。そして彼らは、「ご覧ください。私たちはあなたの奴隷です。」と言いました。けれども、ヨセフは、こう言ったのです。「50:20 あなたがたは私に悪を諮りましたが、神はそれを、良いことのために計らいとしてくださいました。それは今日のように、多くの人が生かされるためだったのです。」彼らのしたことは悪であったのです。これは、確かなことです。けれども、神はそれを良いことのために計らいとなさったのです。それで、ヨセフは全き赦しを、彼らに施すことができたのです。

## 3B キリストの御霊の証し

この執り成しと、和解の話、何かに似ていませんか？そうです、私たちの主イエス・キリストご自身のお働きです。主は、兄弟であるユダヤ人によってローマに渡されました。しかし、それは私たちの罪のために身代わりでありました。そして、ユダヤ人たちはイエス様に悪を諮りましたが、神

はそれを、ご自分を信じる者に救いを与えるご計画の中に組み入れておられたのです。

なぜ、こうも似たことが、ヤコブの家族の中で起こったのでしょうか？それは、たまたまではなく、ペテロが第一の手紙で答えています。「Ⅰペテロ 1:11 彼らは、自分たちのうちにおられるキリストの御霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光を前もって証した…」キリストの御霊が働いておられたのです！

## **2A 身近な人との和解**

主イエスが、私たちを神と和解させるために十字架の道を進まれました。そして、ご自身にあって互いに和解するためにも、十字架の道を進まれました。私たちは、頭ではそれは分かっています。しかし、主は、ご自分の御霊によって私たちの生の人間関係の中で、和解と赦しの働きを行われます。

### **1B 役に立ったマルコ**

ピレモンへの手紙で、パウロはオネシモを執り成す時に、「以前はあなたにとって役に立たない者でしたが、今は、あなたにとっても私にとっても役に立つ者となっています。(11 節)」と言っています。パウロ自身が、この言葉を自分自身に使ったことがあります。マルコです。マルコの福音書を書いたマルコです。テモテ第二に書いてあります。テモテに対してお願いしました。「4:11 マルコを伴って、一緒に来てください。彼は私の務めのために役に立つからです。」

マルコは、第一次宣教旅行の時に、途中で脱落した人です。バルナバとパウロにマルコは同伴していましたが、キプロス島での宣教が終わり、船出して、パンフィリア地方に上陸したところ、「使徒 13:13 ヨハネ(マルコ)は一行から離れて、エルサレムに帰ってしまった。」とあります。彼の母の家は、エルサレムにあります。それで、第二次宣教旅行に出かける時に、バルナバと激しい対立になったのです。バルナバが、自分のいともあるマルコと一緒に連れて行こうとしたのですが、パウロは、パンフィリアで一行から離れて働きに同行しなかった者は、連れて行かないほうがよいと考えました(15:38)。それで激しい議論になって、バルナバと行動を別にしましたのです。

しかし、マルコは、実にピレモンへの手紙の中にいます。24 節を見てください、「私の同労者たち、マルコ、アリストアルコ、デマス、ルカがよろしくと言っています。」すでに、パウロの宣教の働きに同行していたのです。しかも、彼が獄中にいるのに、共にいるのです。脱落などしていません。そして、パウロが斬首刑にされる時に、テモテに対して、マルコと一緒に伴ってください、彼は役に立つ者だから、と言ったのです。ですから、パウロはピレモンに対して、自分自身のことのようにして寄り添って、彼に嘆願したのです。近くにいる者が途中で離れるということは、どれだけ自分を気落ちされるかしれません。しかし、パウロの内に働かされているキリストの御霊が、自分の思いを廃して、マルコを恵みを持って見ることができたのでしょうか。そして、事実マルコも成長して、パウロと共に

働くのに整えられたのだと思います。

## 2B 小さき者となられたイエス

主は、私たちの実際の生活から離れて存在していません。むしろ、そうした肉の弱さに共におられて、私たちを通して働かれるのです。イエス様が、「マタイ 25:40 あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。」と言われました。主は、ご自身をそのような小さき者と一つになってくださるのです。

## 3B 家の教会にあつたしこり

そういうことを考えると、ピレモンとその家の教会が抱いていた、葛藤を思わざるを得ません。

## 1C 愛と信頼に知られたピレモン

パウロは、ピレモンのことを、愛に満ちている人だとほめています。「あなたが主イエスに対して抱いていて、すべての聖徒たちに向けている、愛と信頼について聞いているからです。(5 節)」

## 2C 盗んで逃げた奴隷オネシモ

しかし、一般のすべての人々に愛と信頼を寄せていても、非常に身近なところで被害を受けたことについては、葛藤があつたでしょう。自分の奴隷が自分の金銭あるいは財産を盗んで逃げたのです。非常に身近になれば、それだけ試みを受けます。

## 3C ローマの獄中での回心

しかし、そのオネシモが、なんと自分もキリストに導いてくれたパウロによって、キリストに導かれたのです。

その尊敬するパウロから、オネシモを迎え入れてくださいと懇願されたのです。とても複雑な気持ちになったと思います。パウロは、自分のことをオネシモから何か悪く聞かれているのではないか？家に傷を与え、しこりが残っているけれども、そのオネシモを過去に何か起こったことを覚えずに、ただ愛によって受け入れ、信頼することができるのか？断ったら、パウロから悪く見られるのではないか？いろいろな人間的な憶測や不安が頭をよぎったかもしれません。

だからこそ、パウロは彼自身をも安心させるため、パウロに両者に対する絶大な信頼を心を広げて、この手紙の中で書いているのです。そういった人間的なところで心を狭くすることがないように、キリストが見ているように見るようお願いしているのです。

## 3A 代償に見られるキリスト

パウロが、ピレモンに対してオネシモのことを執り成している中で、キリストの御霊が働かれてい

るのを見ることができます。

### 1B 獄中で生んだ子

オネシモのことを、パウロは、「獄中で生んだわが子(10 節)」として言い表しています。これほど、オネシモに対して近い関係になってくれたのですが、イエス様は、罪の中に生きている私たちに近づいてくださいました。そして、ご自身を罪とし、私たちを義としてくださったのです。

### 2B 役に立つ者

そして、オネシモを役に立つ者とパウロは呼んでいます。私たちは、神に対して役に立たない者でした。ただ、藁のように吹き飛ばされて、火で焼かれてもよい存在でした。しかし、イエス様の働きによって、私たちは神の作品となり、良い行いをするように召されたのです。

### 3B 迎え入れの嘆願

そして、本文にあるように、オネシモを迎え入れてくださいと嘆願しています。キリストにあって、神は私たちを受け入れてくださいました。この方が、捨てられた者となられたからです。

### 4B 請求

そして、パウロは、「もし彼があなたに何か損害を与えたか、負債を負っているなら、その請求は私にしてください。」と言いました(18 節)。キリストが行われたことは、私たちの罪の負債を返済してくださったことです。請求をご自身にするようにされたことです。「マル 10:45 人の子も、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのです。」

### 4A キリストに似た者

このようにして、私たちの間におられるキリストの働きによって、私たちに真実な赦しと和解がもたらされます。私たちは、三つのことをするようにチャレンジを受けています。

#### 1B 執り成しておられる方

一つ目は、自分のために執り成して下さっている方がおられることを信じて、受け入れることです。「ヘブル 7:25 したがってイエスは、いつも生きていて、彼らのためにとりなしをしておられるので、ご自分によって神に近づく人々を完全に救うことができになります。」私たちが、過ちを犯している時に、完全に救うことができるようにするために、イエス様が今も、父なる神の右の座で、私たちのために執り成して下さっています。このことを受け入れましょう。

#### 2B 赦す者

そして、私たちが次に召されているのは、赦すことです。「マタイ 6:12 私たちの負い目を赦してく

ださい。私たちも、私たちに負い目のある人たちを赦します。」自分が赦されたのだから、他の人が自分に対して負い目を持っているのであれば、赦すのです。私たちはキリストの赦しを受け入れるだけでなく、キリストにあって、他の人を赦すのです。

### 3B 執り成す者

そしてあまり、キリスト者の間でさえ知られてない、大切な働きがあります。それが、執り成しです。パウロがピレモンにしたように、私たちは、仲裁的な働きにも召されています。平和を造る者は幸いです、とイエス様は言われました。誰かが罪を他の人に犯すことによって、これまでの結びつきが壊れてしまっていることが、多々あります。そのための関係修復のために、誰かが前に立って、取り持つ働きをする人が必要です。イエス様がなされたように、私たちもこの方において人々を恵みで見え行き、それでキリストにある和解を達成できるべく、動きます。